## 報恩講をお迎えして

信行両座•信心争論親鸞聖人伝(七)

は「信行両座」と「信心争論」です。を理解していたかを示すお話がのこっています。それ人がたくさんのお弟子の中でいかにお念仏のみ教え親鸞聖人が法然上人のもとでご修行中、親鸞聖

#### 信行西座

どの席につくか選ばれるようにお願い致しました。は「信不退」か「行不退」かと二つの席に分けての許しを受けて三百余の門弟たちに、念仏の教えの許しを受けて三百余の門弟たちに、念仏の教えまず「信行両座」とは、親鸞聖人が法然上人

場です。 生涯救いにあずかる不退転の位が得られるという立生涯教いにあずかる不退転の位が得られるという立

ればならないとするものです。
仏を何遍も称えたり、それに関わる修行をつまなけを信じても、なお本当の救いにあずかるためには念を信じても、なお本当の救いにあずかるためには念

ました。「信不退」についたのは、信空と聖覚、そいましたが、ほとんど全員が「行不退」の席につき三百余人の門弟たちはどちらの席につくか迷って

人の四人でありました。 しえ遅れて参加した蓮生坊(熊谷直実)と親鸞聖

う」と「信の座」に坐られました。
は然上人がやってくると、「私は信心の座につきまして間違いないと思っておりましたが、ややしばらくして他の門弟たちは、たくさん坐っている「行不退」に

は後悔の色をかくせませんでした。 て頭を下げ、 自分のいたらなさを恥じ、また他の者その時、そこに集まった門弟たちは、ある者はだまっ

#### 信心争論

ものであります」と述べられました。
上人の前で、「法然上人の信心と自分の信心とは、次に「信心争論」とは、ある日親鸞聖人が法然

それを聞いた高弟の兄弟子たちが「親鸞ごときのそれを聞いた高弟の兄弟子たちが「親鸞ごときの情心の真実を受けたまわったものには、まったく「私」信心の真実を受けたまわったものには、まったく「私」信心も、どちらも阿弥陀様からいただいた信心であ信心も、どちらも阿弥陀様からいただいた信心でありますから、まったく変わるものではないのです」と主りますから、まったく変わるものではないのです」と主張しました。しかし兄弟子たちも簡単には引き下が張しました。しかし兄弟子たちも簡単には引き下がません。

「信心が違うというのは、自分の努力で何かを信じる」法然上人はその争論に対してこう答えられました。

からといって信じられるものでもありません」。 いらという ことにも違いが出てくるのです。 しかし、他じるということにも違いが出てくるのです。 しかし、他かの信心ということになると、 善人であろうと、 悪人であろうと、 みんな阿弥陀如来の親心から恵まれたものですからみな同じであるのです。 しかし、他だく信心は同じものでなければなりません」。 これがいるといって信じられるものでもありません」。

# 如来よりたまわりたる信心

来よりたまわりたる信心」なのです。
また修行しなければ阿弥陀様には救われないとい
がいたら、その人は私が参ろうとしている浄土に
う人がいたら、その人は私が参ろうとしている浄土に
さいでも大事なことですから、よくよく心に刻みつけ
はとても大事なことですから、よくよく心に刻みつけ
はとても大事なことですから、よくよく心に刻みつけ
なとても大事なことですから、よくよく心に刻みつけ
ないでも大事なことですから、よくよく心に刻みつけ

を固くつくんでしまうばかりでした。 その時、そこに集まっていた人々は、舌を巻き、口

み教えを深く頷かれたのでありました。 人はあらためてお弟子の方々と確認することで念仏の人はあらためてお弟子の方々と確認することで念仏の様からの呼び声でもあるのです。そのことに気づかせて様からの呼び声でもあるのです。そのことに気づかせてお念仏を申すことは、阿弥陀様から信心をいただいお念仏を申すことは、阿弥陀様から信心をいただい

## 親鸞聖人のご法要









#### //

#### ★全員参加・全員おつとめ 実現の願い

でおわります。お寺の目標を、報恩講に 切なご法要、今年こそはどうぞお参り下 は門徒全員が足をはこんで下さるお寺づ くりを進めております。瑞林寺の一番大 浄土真宗は、報恩講に始まつて報恩講

ご法要です。 祖親鸞聖人の一年に一度の一番大切な 報恩講は私たち浄土真宗の御開山、宗

り、取り越(お取越)したりしておつと れぞれのお寺では引き上げ(お引上)た で、ご本山では七日間つとまります。そ 聖人の祥月の命日は十一月二十八日

### なぜ報恩講か

があります。 皆さんが瑞林寺に今、つらなることも、 声のお念仏も、みな親鸞聖人にその源

ら賜りました。 お仏壇のご本尊もみな親鸞聖人さまか

林寺の門徒です。 報恩講に参加して初めて浄土真宗の瑞

## 報恩講の次第

十一月六日お初夜 ~ 八日御満座

六 ○日 説御お七( 教伝つ時火) 細 鈔め 加\_ め 川 好円 師 おやつ 上巻 拝読 おお で で おかり (正信偈)

 $\Diamond$ 

○ ト 説お御十六木 教と献 吉 教と献 十 人 「マ 教節 弥陀経)

おお

日朝

中事

御お師 満斎 座

〇 説九お楽一十 覧 教字つ、時二、教 十と登十時古 で、分 夢 字名号ご開帳(文類正信偈 師 六首引

## 報恩講 懇志のお願い

- $\Diamond$ 各ご家庭から一人はお参り下さい
- 報恩講のお志し (懇志)をお願いします

 $\Diamond$ 

 $\Diamond$ 

事前に懇志をあげて下さった方には、

『報恩講御相伴』券を差し上げております

法事に対するお布施ということです 懇志はお斎料ということではありません

 $\Diamond$ 

- その懇志によって報恩講がつとまります ご協力のほどよろしくお願い致します
- $\Diamond$ 持参下さい お参りの際、『報恩講御相伴』券のみご

他に包みものはいりません

 $\Diamond$ 『報恩講御相伴』券の無い方の当日受 付も可能です

# ※袋が重複の場合はお許し下さい

#### お仏供米の御礼

りがとうございます。 終えてさっそくおあげ下さりあ 仏供さまを、今年も秋の収穫を ここに厚く御礼申し上げます。 本堂の仏さまにお供えするお

> 報恩講 お勝手のお手伝い

7日 8日

通針

老院の語る

#### お念仏の歳時記写 親鸞聖人の越後

#### 蓑笠、 てんでもち

この題の随想がのっていました。 がよみがえったという。 でこ」という先祖たちの苦労の言葉 たらてんでに逃げるよう「津波てん 東日本大震災の教訓で、 報夕刊の 睛雨計」に、 津波がき

母にしつけられたが、今は死語に ら「蓑笠、てんでもち」のことばで なってしまった。 内野育ちの筆者も、子どもの頃か

越後の真宗風土の言葉です。 しっかり踏まえて生活する姿勢が親 のきかないいのち」であることを ちは誰も代わってくれない「代わり のに他人の蓑笠は借りられない、自 た日常の生活用語で、雨露をしのぐ 分は自分で防ぎ守るしかない。いの これは、 聖人の教えによって培われてきた 新潟ではふだん交わされ

吹き荒れて私たちを襲ってきます。 故の災害、ガンなど病気や経済不況、 波の天災であったり、火事や交通事 人間関係など色々な姿、形をとって 無常の風は、天地異変の地震や津 この風は前から来るなら

> わり」はききません。 け」と、どんなに懊悩しても絶対 はずではなかった」「どうして私だ ます。その結果、「まさか」「こんな 防ぎようもあるが、背後から、 また竜巻のように天上から吹き 横か 代代

とめてきたのが新潟の人々です。 と感慨をもってこの世の事実を受け す。これを「娑婆でありますなあ!」 この実際の、この世の事実、現実 まさに想定外こそ人生の事 実で

きました。 聞法の場として浄土真宗のお寺がで 恩講を軸に、親鸞聖人の教えに学ぶ に立って、立ち上がる力の源泉を報

生感に真宗の門徒の生き方がありま「蓑笠、てんでもち」に立った人

## ご相続と末期医療

受け、 のととのった病院です。 療施設があります。ガン宣告などを ホスピスはキリスト教系の病院 ホスピスとかビハーラとかいう医 余命の限りをすごす宗教設備 で

に、心の苦しみを癒す病院として入 で県内では長岡市にあります。 院希望者が増加しております。 に迎える、身の痛みを柔げるととも ありビハーラは仏教にもとづく病院 人生の最後を、心身ともに安らか

ことのように報道され、 このような病院が現代では特別な 扱われてお

番基本的な大切な仕事です。

られたことは残念ですが、仏教の一

務、つとめとしてきました。 終えることは住職の最も大切な任 終のせまった病人が安心して生涯を てはふだんの宗教生活であって、臨 りますが、真宗の寺院と門徒にとっ

され苦悩におののく。 死に直面すると不安と恐怖に襲わ 土へ導く役割が住職の責務です。 の方々を一人残らず仏様の国、 健康なときは喜べた生活も、いざ 阿弥陀さまからお預かりした門徒 闇の世界、地獄のどん底におと お浄

をかねて来訪するものでした。 お願いします」と家族がお寺に相談 そんな時、住職に「親にご相続 を

た宗教的行為でした。 法の「ご相続」といい、広く行われ く。これを越後の真宗門徒では、仏 る病人の手を握ってお念仏の道を説 です。ふとんの中で涙ながらに訴え 世界へ導く導師の役が僧侶のつとめ ざされた壁のドアを開いてお浄土の 闇の世界から光の世界へ、厚く閉

て、ご相続の宗教活動が今日忘れ去 徒の方々に育てられてきました。 る問いの厳しさです。 真剣勝負、首に刃物をつきつけられ 生死の境を前にする門徒と、まさに 衣をつけたお前の信心はどうだ」と、 ご相続をつとめるとき、「僧侶の 在宅から病院での加療に変化し 住職はこの「ご相続」によって門

> 退屈な私の相手は幼い子どもたち、 門のおじいちゃんです。このような 六十年前のことばは今も脳裏にきざ とがあります。静養も快復に向かう の中に育てられたことが小生の背景 くんなせや」と、声をかけられた そうやって極楽浄土へ連れていって 老人が、「ご当院さま、おらたちも あまり列をつくってついてくる。 る肋膜炎を煩い一年余り休学したこ られ、そのような真宗の念仏の風土 念仏に生きる人々が小針には大勢お まれて離れません。 散歩する私の後ろにぞろぞろと十人 この老人は佐藤重吉さん、半左 その姿をながめていた村の篤信の 私は高校生のとき、胸に水のたま

であり、 瑞林寺の歴史です。

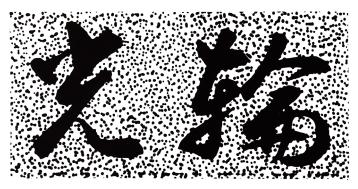
#### 小針の歴史を語る会 周年記念講演ご案内

新潟は昔、 平島にあった』

日時 長谷川 伸 斯潟市歴史文化課 十二月十六日(日) 午後一時三十分~ 先生

※どなたも自由にご参加下さい

瑞林寺



#### 第79号 報恩講号

〒 950-2022 新潟市西区小針4丁目5番18号

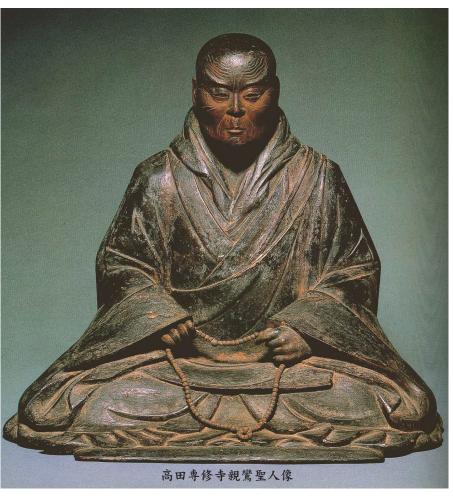
#### 真宗仏光寺派 瑞林寺 光輪会

電話 (025)266-1846 FAX (025)266-1907

ホームページ http://www.zuirinji.com/

#### 標

# 貝おつとめの願い



## 親鸞聖人 七五一回忌

#### 布教使

新 細 通 川 好

小新

丸山文雄 吉峯教範 師 師 師

石川県白山

#### 火 水

六日 当日は法要に本堂へお参り下さい 七日 八日 月参りはお休みします